



じ め い け ん り ゚ ゃ く 自 明 健 力

有銘幼稚園・小学校
学校だより 第14号
令和5年9月25日(月)
文責：園長・校長 前川恒久

ICT 機器は文房具の1つ

ICTとは（Information and Communication Technology：インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー）の略で、意味は「情報通信技術」です。身近な例では、SNS上でのやり取りやメールでのコミュニケーションも該当します。ネット通販やチャット等、人同士のコミュニケーションを手助けする事もICTの活用事例に該当します。

日本でも教育分野でのICT活用に力を入れはじめ、令和2年度に子どもたちに一人一台端末の配布を積極的に行いました。

これまでの授業では「(主に)教師が授業で活用」していましたが、現在では、「子どもたちが学びに活用する」に変わってきました。「子どもが」ではなく、「子どもたちが」です。

現在のICT機器は学びに必要な情報(Information)を入手（インプット、知識の獲得）するだけではなく、入手した情報(学び、知識)を自分以外の他者に伝える（アウトプット、表現、議論）ことが容易にできるようになっています。教室内ではそれは同級生達です。校外にも安全にアウトプットできるようになっています。そういう意味で学びに活用するのは「子どもたちが」なのです。

「子どもが」知識を入手（インプット）するだけでは、それが最適な解答であるのか確かめられませんし、**一面的な偏った学び**になります。自分が得た知識をもとにした考えを「他人に伝える」そして、「自分以外の人の考えを聴く（尊重する）」ことで、自分の考えがより深くより確かなものになります。ですから、「子どもたちが」なのです。自分以外の誰かと学ぶことで「子どもたちの学び」が「深い学び」となり、これからの時代を生き抜く「力」となります。そのためにも、職員もICT機器を活用した新たな授業スタイルに取り組み、日々授業改善に努めています。

しかし、ICT機器が万能というわけではありません。学ぶ内容によっては、紙や鉛筆、大きな画用紙等、従来の（アナログと言われる）文房具が有効な場合もあります。要は子どもたちの学びに適したスタイルや道具があるわけです。ですから、ICT機器は今の時代に特有の新たな**文房具の1つ**なのです。

今の社会では、コンピュータを使ったことのない人はほとんどいないはずです。この30年ほどで社会がそのように大きく変わりました。現在、多くの職場や職業にもICT機器が導入されています。これからの時代を生き抜く「子どもたち」には、そのメリットとデメリットをふまえた上で有効に使う能力が求められます。

